

中国秋季リーグ戦男子1部 Final stage 結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

10/25～26 に広島県猫田記念体育館において、中国秋季リーグ戦男女1部 Final stage が開催されました。

広島大学男子の結果は、以下のとおりです。

vs 島根大学

○3-0 (25-20、25-21、25-20)

vs 福山平成大学

●1-3 (18-25、25-22、11-25、18-25)

vs 東亜大学

●0-3 (26-28、18-25、17-25)

vs 山口大学

○3-0 (25-17、25-17、25-20)

(男子最終順位)

1位 福山平成大学 10勝0敗

2位 東亜大学 8勝2敗

3位 広島大学 6勝4敗

4位 広島経済大学 4勝6敗

5位 島根大学 1勝9敗

6位 山口大学 1勝9敗

ベストスコアラー賞 山下 歩

レシーブ賞 水谷 匡志

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-aki-top.html>

前季4位の試合日程は、1週目と2週目に3試合ずつ、そして最終週に4試合が組まれ、2週目と最終週が連続開催となる秋リーグは、ほとんどボロボロの状態最終週を迎え、試合を消化するのがやっとのイメージでしたが、10年ぶりとなった秋4位スタートのチームはそんな不安を微塵も感じさせず、特にこの土曜日はほぼ仕上がり切った状態で会場に現れ、メンバーもサポートメンバーも含め、チームとして素晴らしい状態にあることを再認識させてくれました。春の段階では、一人一人が自分のポジションでチームに貢献する意志の点で、福山平成大学とはかなりの差があると感じていましたが、この1か月間はコート内外で随所に自発的かつ積極的な行動が多く見られました。上位2チームには結果で及びませんでしたが、それは全日本インカレに向けてまだまだ個人の工夫でできることがある証だと思います。来年の春は、今度は最初の2週連続開催で7試合が組まれる厳しい3位日程が待っています。今年のチームはあと1か月で終わってしまいますが、新チームのスタートラインを上げるのもこの1か月間の過ごし方次第ですので、それぞれのポジションで今自分にできることを精一杯頑張りたいと思います。

平成戦は、1セット目は18点で落としたものの、サーブの精度が先週から驚くほど高くなり、1本目を崩して3本目の的を絞る理想的な展開に持ち込み、相手の攻撃をノータッチで落とすことはほとんどありませんでした。5季ぶりにセットを奪取した2セット目は、相手のサーブミスに助けられたとは言え、序盤からリードを奪っても全く浮つくことなく、淡々とサイドアウトを狙って実際に25点までそれが出来るところに改めてこのチームの強さを感じました。水谷（4年・三重・松阪高校）、松本（3年・兵庫高校）、出口（3年・長崎・五島高校）のキャッチ陣は、Aパスを狙うか上にあげるかの意思疎通が取れていて、毎回確認が出来ているからこそ、強いサーブで失点しても「いいよいいよ、次あげよう」と切り替えられるのだと思います。コートの中の雰囲気が悪くなるときと言うのは、往々にして確認の声がなくなるものですが、この下半期、振り返ってみると、そうした時間帯が全くなかったことに気付かされます。水谷がリードする声には、チームを自然と前向きにさせてくれる効果があり、他のチームを見ても、継続して活躍しているプレーヤーは皆、確認の声を怠っていないことが分かります。1部男子は、水谷のような声を出せる選手が、各大学で明確に一人は思い浮かべることが出来ますが、個人的には彼らが、優秀なプレーヤーでありマネジメントもできる水谷の姿勢を見習っているように感じました。今大会は過去になく、会話ができるチーム、考えられるチームばかりで、どの試合も大変見応えがありました。中国学連の元来の強みである1点1点の盛り上がり、考えるための声も加わって、1部男子リーグのレベルが一つ上がったように思います。広大は上を目指す立場でありながら、目指される立場にもありますので、その自覚を持ってこれからも中国学連全体を牽引して欲しいと思います。

東亜戦については、広大の攻撃は全部通っているのに、終始流れがなかったと感じました。

新谷（2年・広島城北高校）のセンター線を軸にしたトス回しがブロッカーを分散させ、佐々木（4年・佐賀西高校）、川村（1年・東京・日本大学第三高校）の両センターが躍動し、苦勞せずサイドアウトを取っているように見えてましたが、ブレイクチャンスでブレイクすることができず、もう1点欲しい場面でミスが出てしまい、珍しくフラストレーションが溜まる試合だったと思います。リーグ戦最終日でさすがに体の状態が浮いた、重心の高い選手が多く、1本目がボール1個ほど短くなり、2本目も修正がきかずに割れてしまい、ここぞの3本目で勝負できない状況が続いてしまいました。相手の左利きのエースを最後まで止めることができず、全員に悔しさがにじむストレート負けとなりましたが、全日本インカレに向けては非常に良い経験になったと感じています。東亜相手に勝ちに行き、サイドアウトも取れて、自分たちの状況は決して悪くはないけれど、結果だけ見ると0-3、と言うのはインカレでも十分に起こりうるシナリオです。今のチームなら、強豪相手に自分たちのバレーボールはできたね、よく頑張ったね、と言える結果は手にできると思いますが、現役生は誰も経験したことがない6年ぶりの全日本インカレ1勝を手にするためには、今のチームのままで足りないところがあるのかもしれません。平成や東亜が相手でもサイドアウトが取れることは素晴らしく、相当な練習量も感じますが、相手より先に3セットを取って初めて1勝となるハードルは、そう簡単に乗り越えられるものではありません。各々が思う、これが足りてないんじゃないか、これが必要なんじゃないか、と言う豊かなアイデアをスタートにして、この1か月間が最高に充実したものになることを期待しています。

今週末（11/3）は広島大学北体育館で秋季リーグ入替戦が行われます。
2部2位の広大女子は、第1試合で1部5位の至誠館大学と対戦します。
引き続きよろしく願いいたします。